



Asflora 便り 2019年2月22日
『地球村の森 - 2019』・「第28回熱帯林再生実験」植樹祭



Asflora (アマゾン森林友の協会)は、2019年2月22日(金)午前中、恒例の Miyawaki-2019 植樹祭を行いました。場所は、ベレン市内の州立ウチンガ公園の一面にある荒廃地です。パラ州森林院 (Ideflor-bio) が管轄し、Asflora と森林院は技術協力提携関係にあります。

この植樹は、三菱商事「第29回東アマゾン熱帯林再生実験」と、NPO『地球村』第9回森づくりとして行っています。三菱商事は、28年目、NPO『地球村』は今回で9年目となります。継続したご支援が得て、熱帯林再生植樹 (Projeto Miyawaki) が継続しています。



今年の植樹を行うウチンガ公園には、ベレン市とアナニンデウア市民に供給される上水道の取水地があります。水源環境保全にとって大切な公園の敷地は、1,393ヘクタールで、ガマ河に繋がる幾つもの湖水とそれを囲む森が広がっています。公園内には遊歩道、自転車道が整備され、休日には多くの人々で賑わいます。

植樹地は、幹線路から外れた未舗装道路脇にあります。水路開設時に掘り取った土を捨てた跡地で、あちこちから水が染み出しています。

十数年前に、パラ州内 10 億本の苗木を植える植林運動が州政府の鳴り物入りでありました。地元の人から聞いたところ、その運動で今回植樹する場所にも多数の苗木が植えられたそうです。しかし、植樹した形跡が見られません。粘土質で、有機質に乏しい痩せた土壌と、水の沸く地帯なので、ただ木を植えても育たなかったのでしょう。触れば手を切るような雑草だらけで、ちらほらと、荒れ地に強いムルシー（黄色い実がなり、地元民と鳥獣の好物）とアジュールの灌木が見られます。

そこで、これまで行ってきた全面的に有機質を散布する地拵え方式を改め、慎重に植樹を進めてゆくことにしました。水が溜まりそうな場所を避け、島状の森づくりを目指し、植穴には、掘り取った粘土は戻さず、搬入した有機肥料入りの用土（壤土）でポット苗木を植える方法としました。



1 月 15～21 日に最初の 1,000 本の苗木を試しに植え、次いで 2 月 14 日、州森林院の実習生 20 名を対象に、Asflora と森林院で講習会を行い、翌 15 日に現場で 1,180 本の植樹を行いました。この講習に参加した実習生（学生）たちの内 10 名が、植樹祭時に子供たちへの植樹補佐役になってくれています。2 月 22 日の植樹祭以前に植えた 2,180 本の苗木は、枯れるものが見られません。



↑ 森林院（Ideflor-bio）総裁 Karla Lessa Bengtson 挨拶



↑ ベレン領事事務所 相澤副領事 祝辞



2 月 22 日の植樹祭は、午前 8 時半から、森林院本部建物内の講堂に集合して始まりました。マリツバ市立の学校 2 校の生徒 39 人と教員 5 人を主賓です。生徒たちは、小学校 5 年生ですが、10～15 歳と年齢がまちまちです。義務教育期間中でも、地区によって家庭環境から、途中で休学してしまう子が多いせいなのです。森林院関係者、連邦カカオ院、トメアス市農業局（局長 Ernesto Suzuki）、アナニンデウア市環境局、環境団体、Asflora

のメンバーが合わせて 66 人集まり、合計 110 人の植樹祭参加者となりました。三菱商事を代表して、サンパウロのブラジル三菱商事から岡ノリエさんと、アルゼンチン三菱商事の寺島広美さんが前日から来てくれています。ベレン領事事務所の相澤副領事も参加して頂きました。

植樹地には、森林院の小型バス 3 台で移動しました。この日に用意した苗木は、1,238 本、記念看板を設置した近辺に、植穴が掘られ、すでに苗木も樹種を混ぜて配置、用土は要所要所に置いてありました。Asflora 森の劇のマイ・ナトレーザ（自然の母）が現れて、植樹への意義と植え方の説明を行いました。



植樹完了後、植えた区域を囲んで、いつもの通り **Viva Natureza!**（自然万歳！）の三唱を行いました。その後、記念撮影し、ウチンガ公園入口の施設内へ移動、ランチを取りました。



植樹したのは、この日で合計 3,418 本、50 樹種です。これから約 4,400 本を植え、合計 7,800 本の植樹を 4 月中に完了します。4 月 23 日（火）に、関係者と子供たちを再度集めて、植樹完了と状況

確認を行うための催しを予定しています。



今回の植樹祭、資金提供をして頂いた三菱商事、NPO『地球村』の他、全面的な州森林院ベレン地区（責任者 Júlio Meyer Júnior）の協力、連邦コーヒー院（土壌分析）、マリツバ市教育部、アナニンデウア市環境部、アナニンデウア市のパン屋さん、ベネビーデス市のマリアポリス団体、ゴミ問題に取り組む NGO Instituto Manguuezal、生徒たちへ記念品のナップザックを提供してくれた方たちなど、多くの方々のご支援、ご参加を得て、楽しい植樹祭が出来ました。ありがとうございます。

下の写真は、**昨年の植樹地**ベレン市モスケイロ島ファゼンダ・エスペランサのもので、1年経ちましたが、これまでの植樹地のように一様に生育していません。砂地で水はけが良さそうだったので、広い範囲が滞水し苗が活着しませんでした。これは、地拵え時にトラクターでの耕耘をしたことも影響したようです。更に強い雨が例年より多く、土壌表面を覆った有機質がかなり流されてしまいました。この経験から、今年の植樹地では、滞水しそうな箇所を避け、有機質で覆うことも、強い雨の時期が収まるのを待ってから行うようにします。



左上) 2018年3月27日の植樹祭時



→ 右上) 植樹祭から1年後（2019年2月21日）

文 佐藤卓司（代表）
Instituto Amigos da Floresta Amazônica-ASFLORA
実施担当: Marluce Amorim, Josiane Mattos, Bruno Amaral